

美しい瀬戸内海 それって、ホント!?

かけがえのない、
美しい瀬戸内の風景…
「海ゴミ問題」について、
考えてみよう。



高松市瀬戸内漁業協同組合

海ごみの原因と、 「見えない」環境問題。

海ごみとは、海にあるごみの中で漁業操業や海上交通に大きな影響を及ぼします。

また、海岸に漂着したごみは景観を悪くします。これら海ごみは大きく3種類に分類され、その中でも海底ごみは普段ほとんど目にしないため、「目に

見えない環境問題」と言われています。

高松市では本津川や香東川などの、流域に大きな生活圏を持つ河川があるため、多くの河川由来のごみが海へと流れてきています。

河川のごみ



河川のごみ



海岸漂着ごみ



海面漂流ごみ



資料提供:水島地域環境再生財団

海底堆積ごみ

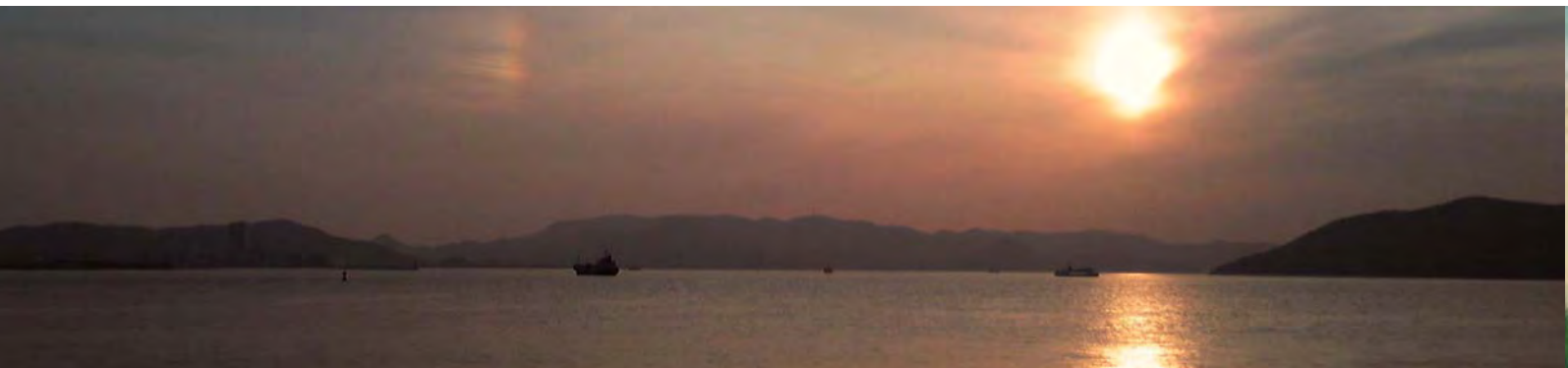


海底堆積ごみ



資料提供:水島地域環境再生財団

資料提供:四国地方整備局高松港湾・空港整備事務所



さまざまに影響する、 海ごみの問題点。

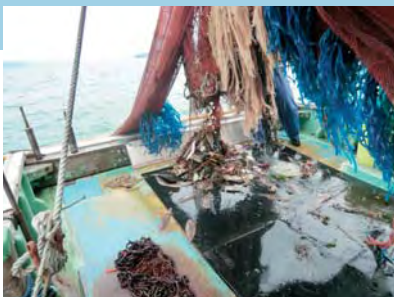
景観の悪化

- 海岸の景観が悪化する。
- 海浜清掃しなければならない。



漁業への支障

- ごみの中から漁獲物をより分けなければいけないため、時間がかかる。
- 商売道具の網を傷める。
- 魚が傷む。
- 漁師自身のケガに繋がることもある。



処理が大変

- 海ごみは一般廃棄物として市町に引き取ってもらえないため、処理に費用がかかる。
- ペットボトルや缶は汚れているためリサイクルできない。分別に手間がかかる。



その他

- 漂流ごみは船舶の航行を妨げるため、海上交通に支障を来たす。
- プラスチック等の人工ごみは分解されず、ずっと漁場に留まるため、海底の環境悪化や、それに伴う稚仔魚育成の場の減少など生態系に悪影響を及ぼす。



備讃瀬戸海域における、 海底ごみの実態。

平成23年10月11日から平成24年1月31日までの間に、高松市瀬戸内漁協所属の底曳網漁業者87名に操業中に入網したごみを持ち帰ってもらいました。持ち帰ってもらった海底ごみを調査した結果、総回収量が65ℓゴミ袋で642袋分、体積で約38㎡の海底ごみを回収しました。これらのうち、71袋を抽出し、袋の中身の調査を行った結果、3,623個のごみがあり、重さ約140キロになりました。全体では、32,760個、重さ約1.3トンになりました。

備讃瀬戸海域では、ビニール、ペットボトル他プラスチック等の石油原料製品だけで、全体の約6割を占めていました。また、缶だけでも全体の約3割と最も多くの割合を占めていることがわかります。

これらは、普段の生活でよく目にするものがほとんどであり、陸上の生活由来のごみが、河川を通じて海に流れてきたり、海岸等や航路筋で捨てられたゴミが、巡りめぐって漁師さんの元へとやってき

ているのです。

このような事実をひとりひとりが認識し、瀬戸内海をさらに美しい海へと変えていくために、身近なところから取り組んでいきましょう。

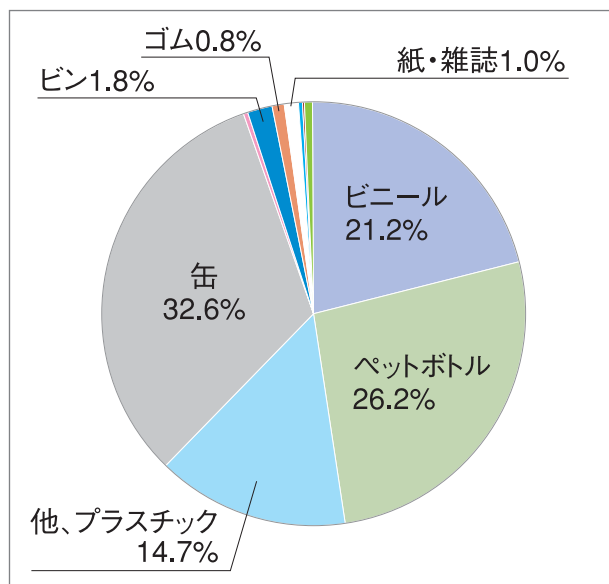


図1. 全体のごみの割合 (個数)

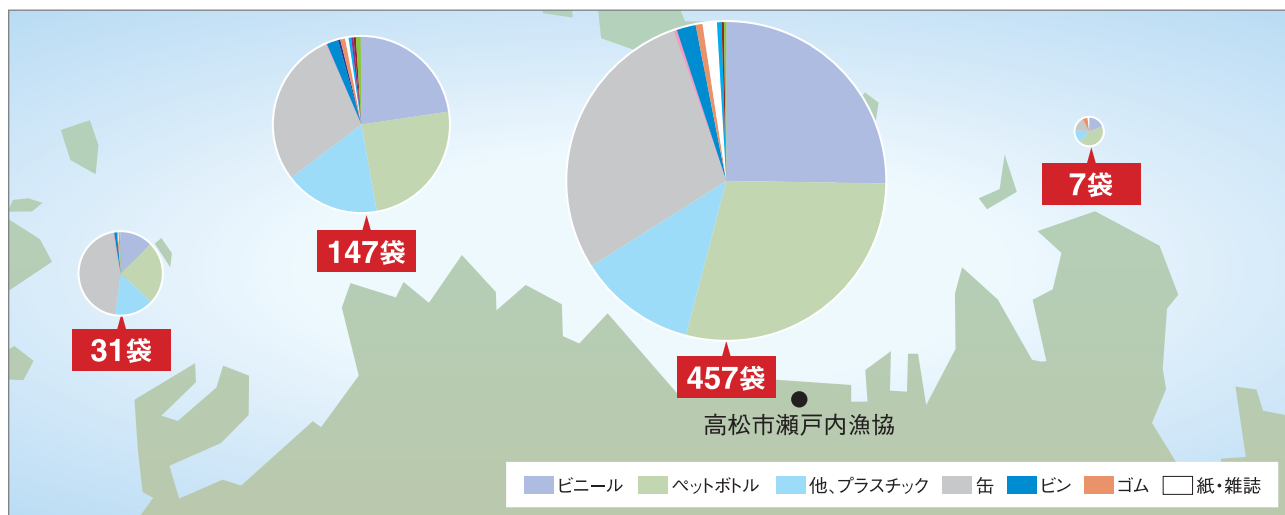


図2. 海域ごとの割合 (回収袋数)

●当冊子は、平成23年度に海岸漂着物等の発生抑制に係る海底ごみ対策事業（備讃瀬戸海域）によって作成しました。